

令和6年度かわさき教師塾

☆『明日の先生日記』☆

子どもの笑顔が
あふれるまち
かわさき



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

『明日、子どもたちの笑顔の前に立っている私』をイメージする学び

1月18日(土) 川崎市の特別支援教育・外国につながる子どもへの取組についての講義事例を基に困り感のある児童の見方や手立てを考え、深め合うグループ交流が行われました。

令和7年1月18日(土) 日程

- 10:05 特別支援教育
- 11:10 日本語指導が必要な子どもたちの教育
- 12:00 ~昼食・休憩~
- 12:30~12:50 「教員採用試験個別相談会」
- 13:00 個に応じた支援(グループ協議)
- 全体指導助言
- 14:45 振り返り・事務連絡 15:00 終了



クラスの一員として、みんな同じ

あなたにとって、特別支援教育とは何ですか？

私は、教育をみる一つの視点・角度だと思っています。「特別」なものではなく「当たり前」のものになってほしいと思っています。



支援は「特別」なものではなく、通常級でも「当たり前」のように子どもに分かりやすい支援を大切にしている場面が多いと感じた。

誰にも笑顔で接し、子どもの笑顔を引き出し、笑顔あふれる楽しいクラスにしていきたい。



一人ひとりの違いが豊かになる...そんな肯定的な見方ができる温かいクラスをつくりたい。



学びの場と支援			
通常の学級	通級指導学級	特別支援学級	特別支援学校
支援なし	入り込み	取り出し	交流なし
支援なし	交流あり	交流あり	交流あり
支援小			大

教育を受ける権利の保障であること



見かけ上の困り感や国籍、診断等によって判断するのではなく、その子の背景を把握した上で支援する必要があると感じた。



先生自身が違いや多様性を大切に



明日も学校に行きたいな... 学校を「嫌」な場所にしない

受け入れ その④ 学級(学年)の児童とのつなげる

外国からの転入生！ どうやってかわかればいいのかを？(質問したい！)

温かな雰囲気のある在籍学級・学生
(例) 日本語と外国語があいさつ 世界各地や国旗の掲示 名前のアルファベット表示

担任：かわかる教職員との姿勢
(例) ゆっくり、わかりやすく、笑顔で一緒にやってみせる「おはよう！！」

先生がかかわりのお手本に

先生の言葉や行動が児童生徒の手に！



様々な困難を抱えている子どもたちと向き合う上で、子どもを多面的に捉えることの必要性を学んだ。

表面的に起こっていることだけでなく、その背景を見ようとする姿勢が大切



私自身が関わり合いのお手本であり、子どもたちはよく大人を見ているからこそ1つ1つの行動を大切にしたい。

みんながって、みんないい...その子が学びやすい環境を整えるという考えを忘れないようにしたい。

「困った子ではなく、困っている子」...適切な支援を行い、学校が楽しいと思ってもらえるような先生になりたい。

支援の手立て

- 過敏さ
- 見通し不安
- こだわり
- 対人関係の苦手さ

- ・ 苦手を強要しない。回避できる力を。
- ・ 環境づくり(明確化・構造化・ツールの活用)
- ・ 褒める



意見交流では、班で気付かなかった考えや発想を他の班から学べ、色々な方向から子どもを見つめる重要性を感じた。



子どもへの声掛けや関わりを大切に、良い面に気づき、褒め、得意なことを伸ばして、仲間同士が認め合えるクラスにしたい。



昼休みに3回目の「教員採用試験個別相談会」が実施され、前回以上に多くの受講生から具体的な質疑がありました。また夕方開催された「教員志望者向け説明会」にも多くの受講生が参加し、教員への強い思いが感じられました。